

「海星中学校の郷土芸能の伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立海星中学校

2 学年・人数

青瀬地区生徒（1人）長浜地区生徒（8人）鹿島地区生徒（8人）計17人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年7月～8月 長浜地区コミュニティセンター

令和3年10月～11月 青瀬地区コミュニティセンター

令和3年5月～11月 鹿島公民館

(2) 発表の日時・場所

【青瀬ヤンハ】

令和3年11月3日（水） 青瀬神社例祭（青瀬地区）

【長浜出羽踊り】

令和3年11月6日（土） 本校文化祭で披露予定であったが、練習の時期に県独自の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置で、練習場所が使用不可のため、練習途中であったが、今年度は中止にした。

【鹿島太鼓】

令和3年11月6日（土） 本校文化祭（海星中）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 青瀬ヤンハ（青瀬地区生徒）

ア 由来

由来は諸説あり、年代もはっきりしていないが、青瀬郷土芸能保存会長によると、「壇ノ浦の戦いに敗れた平氏の落人が島に流れ着き、考え出したと伝えられている。」ということである。江戸時代には島を治める地頭の来訪に合わせて披露したようである。

イ 構成等

太鼓と拍子木に合わせて、刀で切るような扇子の動きに特徴がある。「ヤンハ」という力強いかけ声の一方で、日本舞踊の優雅な動きもある。踊りの「出羽・中踊り・入羽」の三部構成からなる。

(2) 長浜出羽踊り（長浜地区生徒）

ア 由来

伝わり方等については、文献や古老の口伝えにも残っていない。相当前から島民に親しまれていたようである。古老の話から、藩政時代に7つの村がそれぞれの踊りを地頭屋敷の前庭で役人方に披露し、出来映えによって役人方のおほめの詞を給わると大変な名誉とされたことから、踊りの稽古に相当な日数を費やしたものであったらしい。

イ 構成等

踊りは花道から舞台に出る最初のところを「出羽」と称して、舞台上で披露する踊りを「中踊り」、舞台から引き上げるところを「入羽」と名付けられている。

(3) 鹿島太鼓（鹿島地区生徒）

ア 由来

昭和55年鹿島村郷土芸能保存会が組織し、新しい郷土芸能として、荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行った。その後、婦人会を中心に継承し、鹿島小中学校（中：現在休校）の児童生徒が練習し、文化祭などで披露してきた。

イ 構成等

大太鼓，中太鼓，締太鼓，小太鼓で形成している。参加人数によって竹太鼓等でアレンジしている。

5 保存会や地域との連携の具体

伝統芸能の伝承については、各地域の保存会が中心となり、取り組んでいる。そのため、学校は教育活動に位置付けることはないが、各地域担当職員が保存会と連携したり、時には生徒とともに参加したりし、伝承活動を積極的に支援している。本校文化祭や各地域の行事において披露してもらっているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域行事や文化祭での披露が中止となっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校では小中一貫教育において、地域での伝統芸能を小学校5年～中学1年生がその由来や特徴を取材し、壁新聞を作成している。そのため、生徒は各地域の伝統芸能に高い関心をもっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【青潮神社例祭（青瀬ヤンハ）】 【練習の様子（長浜出羽踊り）】 【文化祭（鹿島太鼓）】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【生徒】

夏休みにコロナの影響で、練習できなくてとても不安でした。曲は変わってしまったけど、文化祭で披露することができてとても良かったです。これからは保存会として、積極的に取り組んでいきたいと思います。

【教員】

本校の文化祭の特色である、各地域の伝統芸能披露がコロナ禍の影響により、例年より少ない披露で残念だった。来年度は、早めに練習を開始し、地域とともに伝統芸能を伝承し、下甕島を盛り上げたい。

【保存会】

今後は、生徒が少なくなっていく中で、郷土芸能をどのように伝承していくかが課題ですが、子どもたちが、郷土（甕島）を思う気持ちを忘れずにいてほしいです。